



会報

2018 ▶ 2019
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ
会長目標

親睦と奉仕、
閃きと実行

会長／大嶋 孝広 幹事／堀 光輝

インスピレーションになろう

プログラム

- 本日
来賓卓話「更生保護にかける想い」
留萌地区保護司会 会長 吉田 俊昭様
- 次週予定
来賓卓話「カラダの仕組みを知り疲れを元気に変えましょう」
リラクゼーションサロン Natural Smile 齋藤 幸恵様

配偶者誕生日
堀 美由貴
辻 本 順子

No. 2811
第25回 1月23日

出席報告

前
例
会

会員総数	34名
出免会員	3名
出免出席	3名
基準会員出席	17名
出席率	58.82%

前
々
会

第22回 12月19日

欠席会員	15名
内メイクアップ	0名
修正出席率	55.88%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告

- 1月11日、留萌青年会議所の新春の集いに出席して参りました。中出理事長の立派な所信表明を聞いて参りました。
- 松岡会員より、腰痛にて旭川の病院にて入院治療するため、留萌ロータリークラブ細則第12条出席義務規定の免除の申請があり、臨時理事会を開催しこれを承認致しました。
- ガバナー月信の新会員紹介に大沼会員の記事が掲載されております。ご覧ください。

📁 幹事報告

- 赤平ロータリークラブ、妹背牛ロータリークラブより12月会報と1月例会案内を受領しました。

- 2510地区より、第3回米山学友交流会帰国報告会開催案内と厚真町応援バスツアー開催の案内を受領しました。参加希望者は幹事まで。

👥 委員会報告

親睦活動委員会

鈴木委員長

既に皆様にはFAXにてお知らせ致しておりますが、2月6日の例会は創立記念夜間例会となっております。午後6時30分点鐘で、場所はホテル神居岩となっております。出欠の締め切りは1月29日です。多くの会員の出席をお願いします。



3分間情報……………

会員研修委員会

森(幹)委員

「職業奉仕と利潤の関わり」松下幸之助

職業奉仕という事と関連して、よく企業の社会的責任と言う事が言われる。これは一言で言えば、企業は社会に対して奉仕貢献していかなければならない。そういう責任があると言う事だろう。例えば、より良い製品なり、サービスなりを適正な価格で豊かに提供していくという企業本来の使命もその一つであろうし、その他いろいろな形で社会にプラスしていく事が要求されているというわけである。

私もその通りだと思う。企業と言うものはいわば天下の金、天下の人、天下の土地を擁して事業を営んでいるのである。その企業が事業活動を通じて、何かしら社会にプラスするものを生み出さないなどという事は許されない。それでは企業の存在意義はないと言っていいであろう。その意味で、企業の社会的責任というものは、きびしく問われなければならないと思う。

その場合、一つ気になる事は、企業の社会性ということの解釈である。具体的に言えば、利潤というものとの関係である。つまり社会性が大事だという事で利潤を軽視する。あるいはこれを社会性に相反するものと考え。その様な風潮が社会の一部に見られるように思う。利潤を追求すれば、企業の社会性が失われる。なるべく薄利で売って儲けない事が社会性に合致するものだという訳である。そういう論調が新聞や雑誌、あるいは一部の有識者の発言にも往々として見られるものである。

たしかに、暴利をむさぼるなどという言葉もある様に、無制限に過度な利潤を追求するなどという事は好ましくないに違いない。また、事実そういう姿も見られるだけに、利潤は社会性に反するといった見解も出て来るのであろう。しかし利潤とは、本来そんなものだろうか。私は決してそうではないように思うのである。

仮にすべての企業が一切儲けないようにしたらどうなるのか。一番困るのは誰だろうか。企業自体だろうと言われるかもしれないが、必ず

しもそうではないのである。赤字だというのであればともかく、収支トントンであれば、何とかやっていけない事はない。

と言って、誰も困らないわけではない。今日企業の利益の半分は税金として国や地方団体に収められる。国の法人収入は、予算総額の四分の一にもなる。もし各企業が軒並みに儲ける事をやめたら、国庫は大減収となってしまう。つまり、一番困るのは政府である。という事は、困るのはお互い国民であるということにも通じる。社会保障も出来ない、教育の充実も、道路などの整備も出来ない。国民の福祉は大きく損なわれる事になる。それだけではない。せっかく企業に投資してくれた株主にも、配当を持って酬いる事が出来なくなる。また、次々と新しいものを生み出し、良品を適正な価格で提供していくための施設の改善や研究開発に対する投資もできない。その事は長い目で見れば、消費者大衆にも大きなマイナスともたらずものであり、企業本来の社会的使命、責任に相反することは、はなはだしいと言わなくてはならない。

そういう様に考えてみると、企業にとって利益を上げる事は誠に大切だという事が分かる。それは社会的に反するどころか、まさに合致する事であり、社会的責任を全うしていくために不可欠なものだと言える。もちろん、ここで言う利益とは、いわゆる暴利ではなく、社会の良識からみて妥当と考えられる適性利潤を指すものである事は言うまでもないが、いずれにしても、いくら社会的責任を唱え、社会に奉仕貢献すると言ってみても適正利潤がなかったら、それも空念仏に終わってしまうのではないだろうか。見方を変えるならば企業は、良品を適正価格で提供する為に創意工夫をこらして研究開発に努め、一方では神一枚、電話一本も節約するなど、骨身を削るような思いで苦勞努力しているのである。そういう努力の成果が、幸い社会を益し、余の人々の受け入れる所となった。そこで、その報酬として社会からは与えられるのが適正利潤というものなのだという事である。そういう観点からすれば、利潤という物は一面において企業が社会にいかにか貢献したか、つま

りはどの程度、職業奉仕をしたかを示す、バロメーターだと言えるのではないだろうか。

私は、職業奉仕という事を考えるについて、先に述べたような職業観と共に、こうした利益について正しい見方を、お互いにしっかりと認識する必要があるはしないかと思うのである。

ニコニコBOX

・松村院長ようこそいらっしゃいました。

大嶋会長

前 回 640,652円

今 回 2,000円

累 計 642,652円

プログラム

「年男・年女大いに語る」

高橋 理佳 会員

皆さんの期待どおりのイノシシ年です。今年をもって区切りのいい歳を迎えます。

私もほどほどの認識がありますので永遠の36歳と言うのも口幅ったいので今年から「永遠の48歳」で行かせて頂こうと思います。

これで、今まであったように同じ年を2年続けることもなくなるので楽になります。

私は、七日生まれなので両親は「なな」と名付けようとしたそうですが、その当時の女流作家で「なな」と言う方がいらして不幸な亡くなり方をしたことで「なな」と言う名をやめたそうです。

名前の申請時期が来てもなかなか決まらず、姉の名前の候補だった「理佳」と言う名を付けたと聞いています。

残り物に福が有ったのかどうか分かりませんが、この年になるまで苗字で呼ばれることも少なく、皆さんに「理佳ちゃん」「理佳さん」と名前前で呼んで頂いています。

誰も出もが呼びやすい名前を付けてくれた両親には感謝しかありません。

子どもの頃はNHKの人形劇に掃除機に乗っ

た魔法使い「魔女リカ」とか、リカちゃん人形などからかわれたことはありますが、共に人気者だったので悪い感じも受けませんでした。もし呼びにくい名前だったらこうして気軽に声をかけてもらえてなかったかもしれないと感じることもありましたので、画数が多い以外は大好きな名前です。

ロータリークラブに入ったのは、当時の会員増強委員長だった山本会員が入会申込書を持ってきて半強制的に入会申し込み書を書いたような気もありましたが、私は留萌クラブより1歳年上と言うことを入会してから知ったので、これも縁なのかなと思っております。

でも、入会当時は初女性会員ということでみなさん腫れ物にでも触るようにそれは大切に扱っていただきました。今となってはいい思い出です。

2020年を目前にする年になって思い出しましたが、前回の東京オリンピックもテレビの前で正座してしていました。

昔はテレビは正座してみる。チャンネルが緩くなってもマッチ棒を差し込んで使うとなかなか大切なものでした。

その当時は、テレビのアンテナも室内アンテナを使っていてウサギの耳のような形の物の真ん中に座って耳のようなアンテナを両手で操縦するように動かしていくつも壊し、とうとうその形のアンテナは二度と我が家に来ませんでした。かなり怒られたように思いますが懲りない子だったようです。

今はデジタルな物を販売する生業にありますが、古きよきアナログな時代に育って私としては幸せだったと思います。

今年は元号も変わり新たな年のスタートとなります。自分の人生も再スタートの区切りになる年だと感慨深く新年を迎えました。

ちなみにイノシシ年生まれではありますが、さらにしし座のO型という最強ですので、私の取り扱いには十分に優しい気持ちで接して下さることを希望します。

今年もよろしくお願いいたします。



PRESIDENT'S MESSAGE
RI会長メッセージ



インスピレーションになるう

ロータリアンの皆さま

職業奉仕は、定義するのは難しいかもしれませんが、説明するのは簡単です。端的に言えば、ロータリーと職業が重なり合うところ、つまり仕事を通じてロータリーの理念を実践するのが職業奉仕なのです。

海外で何年間も医療機関の管理運営に携わった後、パハマに戻った私は、母国が近代的な医療施設を切実に必要としていることに気付きました。当時の施設は時代遅れ、かつ不十分であり、必要な治療を受けるためには海外に行かなければならないことも多かったのです。アメリカで培った経験がなければ、私はその現状を変えるのは不可能だったでしょう。しかし、その経験がある私は、他の医療関係者と違って変化を起こすことができる立場にあったのです。職業を奉仕へとつなげ、パハマの医療改善に自分のキャリアをささげることができると考えました。

ロータリーが人生の一部になると、ロータリーの礎となった「力を合わせれば限界はない」というポール・ハリスの言葉が自分の職業人としての人生にも当てはまると悟りました。私一人でパハマに近代的な医療をもたらすことはできませんでした。しかし、のちに自分が経営する病院、ドクターズホスピタルでパートナーとなった医師たちと、何年もこの病院で働いてくれた熱意あふれる職員全員の力を合わせれば、どんな変化でも起こすことができました。私の目標はみんなの目標になり、現実となったのです。

ロータリーはあらゆる職業を尊重し、その価値を重んじます。創始者4人の中には医師や平和構築者はいなかったことを思い起こしてください。ロータリーを始めたのは普通の弁護士、鉱山技師、石炭商、洋服商でした。創立時からこうした多様な職業人が集ったことは、ロータリーにとって特別な強みとなりました。この多様性は、各クラブがそれぞれの地域で奉仕する事業や職業全般を反映することを目的とする職業分類の制度に表れています。

ポール・ハリスはかつてこう述べました。「ロータリアンのひとりひとりが、ロータリーの理想主義と自分の職業を結ぶ輪の役をするわけです」。当時、これは真実であり、また今でも同様に真実であるべきなのです。ロータリーの例会にかかる時間は毎週1～2時間ほどですが、ほとんどの人が週の大半を仕事に費やしています。ロータリーを通じて、こういった時間も奉仕の機会となります。それはつまり、同僚、従業員、そして私たちが奉仕する地域にとってインスピレーションとなる機会なのです。

BARRY RASSIN
2018-19年度国際ロータリー(RI)会長